

教科	地歴	科目	地理総合			単位数	2
学科	普通科	履修学年	1	コース		必修・選択	必修
教科書	『新地理総合』（帝国書院）		『新詳高等地図』（帝国書院）				
副教材等	『新詳地理資料 COMPLETE 2023』（帝国書院） 『高等学校 新地理総合ノート』（帝国書院）						

学習目標	地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、地図の利用など、地理に関する諸技能を身につけさせる。地理に関わる事象の意味や、人間や自然環境との相互依存関係、空間的相互依存の概念を理解し、課題に気づき、解決に向けて考察、構想し、発表、議論を通して他者と共有することで課題解決能力を向上させる。よりよい社会の実現を視野に、主体的に諸課題を追求、解決しようとする態度を養い、日本国民としての自覚と世界の諸文化理解の姿勢を涵養する。
指導の重点	現代の世界は、「グローバル化」「国際化」といわれるほど、さまざまな国や地域との交流がさかんになり、お互いの国や地域について理解することが重要な時代になっている。地理総合ではそれぞれの国や地域での生活・文化を概観し、課題を解決する力を養い、国際人として生きる力を身につけられるように指導をする。

学 習 計 画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1学期 (20)	第1部 地図でとらえる現代世界  第1章 地図と地理情報システム  1節 地球上の位置と時差 ①地球上の位置と私たちの生活 ②時差と私たちの生活 2節 地図の役割と種類 ①地球儀と地図 ②身の回りの地図 ③統計地図の種類と利用 ④地理情報システム(GIS)の活用  第2章 結び付きを深める現代世界  1節 現代世界の国家と領域 ①現代世界の国家 ②日本の位置や領域 2節 グローバル化する世界 ①国家間の結び付き ②貿易によって結びつく世界 ③さまざまな交通網の発達 ④世界を結ぶ通信網の発達 ⑤観光のグローバル化  第2部 国際理解と国際協力  第1章 生活・文化の多様性と国際理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図を持たない人々の生活を想像し、地図の有用性に気づくとともに、利用しやすい工夫が現在まで続けられていることを理解する。</li> <li>・新聞広告や図書館の資料、インターネット検索などを用いて、身の回りの地図の活用事例について調べることができている。</li> <li>・地球上の位置をあらわすために緯度・経度が定められたことと、地軸の傾きによる季節変化と時差の存在を理解する。</li> <li>・メルカトル図法、正積図法、正距方位図法の特徴と欠点を、知識として身につけるとともに、地球儀と世界地図を用いて、球面を平面に表現する際の特徴と問題点を、考えることができる。</li> <li>・地理学習の基本的な技能として、地図の縮尺や方位に注意しながら、地図上の情報を読み解く有用性を理解する。</li> <li>・インターネットを使ってさまざまなWeb地図にアクセスし、日常的に使われているGNSSやGISなど、新しい地図表現の役割を理解する。</li> <li>・現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。</li> <li>・さまざまな情報手段を用いて、現在世界で起こっている国境・領土問題について調べるとともに、日本の領域と周辺国との領土問題にはどのようなものが存在するか、理解する。</li> <li>・グローバル化の中で、人・「もの」・資本の国際間移動の複雑化や、国家的結びつきの変化に気づき、国家が自国の利益などのために結んでいる国際機関の変遷を学習する。</li> <li>・単に交通・情報・通信手段の発達に目を向けるだけでなく、それらがどのように地域を結びつけ、変化させているかを地図から考えることができる。</li> <li>・人々の生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について学ぶ。</li> </ul>	授業態度 発問評価 提出課題 ノート提出 定期考査

	<p>1 節 世界の地形と人々の生活</p> <p>①大地形 ②変動帯 ③安定地域 ④河川がつくる地形 ⑤海岸の地形 ⑥水河地形・乾燥地形・カルスト地形 (①～⑥と人々の生活)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する。</li> </ul>	
<p>2 学期 (24)</p>	<p>2 節 世界の気候と人々の生活</p> <p>①気温・降水 ②大気大循環 (①②と人々の生活) ③世界の植生と気候区分 ④熱帯 ⑤乾燥帯 ⑥温帯 ⑦亜寒帯・寒帯 (④～⑦の生活)</p> <p>3 節 世界の言語・宗教と人々の生活</p> <p>①世界の言語 ②世界の宗教 (①②と人々の生活文化)</p> <p>4 節 歴史的背景と人々の生活</p> <p>①歴史的背景が人々の生活に与える影響</p> <p>5 節 世界の産業と人々の生活</p> <p>①人々の生活を支える農業の発展 ②人々の生活を支える工業の発展 ③グローバル化する現代の産業と人々の生活</p> <p>第 2 章 地球的課題と国際協力</p> <p>1 節 複雑に絡み合う地球的課題</p> <p>①相互に関連する地球的課題とその解決に向けて</p> <p>2 節 地球環境問題</p> <p>①多様な地球環境問題 ②熱帯林の破壊への対策 ③地球温暖化への対策</p> <p>3 節 資源・エネルギー問題</p> <p>①世界のエネルギー・鉱産資源 ②エネルギー資源の現状と課題 ③地域で異なるエネルギー問題への取り組み</p> <p>4 節 人口問題</p> <p>①世界の人口 ②発展途上国と先進国の人口問題 ③地域で異なる人口問題への取り組み</p> <p>5 節 食料問題</p> <p>①飢餓と飽食 ②地域で異なる食料問題への取り組み</p> <p>6 節 都市・居住問題</p> <p>①世界の都市の発達</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その地域の自然環境と、歴史や文化といった社会環境の影響を色濃く受けた世界の特色ある生活文化を、さまざまな衣食住の事例を通して学ぶ。</li> <li>世界の特色ある生活文化にはどのようなものがあるか関心を持ち、地域固有の自然環境や歴史、風土に基づいて形成されたと同時に、グローバル化のもとで新たな変化が生じていることを学習する。</li> <li>祭りやスポーツ、音楽などの伝統と現代社会の影響を受け、変化が見られる事例を学び、現代世界の諸事象を読み解く視点を身につける。</li> <li>多様なアイデンティティを持つ世界の人々と共生していくためには、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化を知ることが重要であることを学ぶ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。</li> <li>地球的課題の解決の困難さや、地域差を学習し、その地域性に応じた取り組みが必要であることを理解する。</li> <li>SDGs の達成に向け、さまざまな主体による国際協力の重要性を学ぶと同時に、企業の社会的責任やエシカルな消費者としての取組を通して、自らの行動を見直すことができる。</li> <li>現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを理解する。</li> <li>各地球的課題について、地域性を踏まえて把握するとともにその問題の所在や解決の方向性を図書館やインターネットなどで調べ、話し合う。</li> <li>人口問題について、先進国の少子・高齢化、発展途上国の人口爆発という対照的な問題が起こっていることを理解する。</li> </ul>	<p>授業態度 発問評価 提出課題 ノート提出 定期考査</p>

	<p>②発展途上国と先進国の都市・居住問題</p> <p>③地域で異なる都市・居住問題への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食料問題について、食料分配の不平等さが飢餓と飽食の地域差を生み出していることを理解する。</li> </ul>	
3学期 (20)	<p>第3部 持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>第1章 自然環境と災害</p> <p>1節 日本の自然環境</p> <p>①地形 ②気候</p> <p>2節 地震・津波と防災</p> <p>①地震・津波による災害</p> <p>②地震・津波の被災地の取り組み</p> <p>3節 火山災害と防災</p> <p>①火山の恵みと災害</p> <p>②火山と共生する地域の取り組み</p> <p>4節 気象災害と防災</p> <p>①さまざまな気象災害</p> <p>②気象災害への取り組み</p> <p>5節 自然災害への備え</p> <p>①減災の取り組み</p> <p>②被災地への支援</p> <p>第2章 生活圏の調査と地域の展望</p> <p>1節 生活圏の調査と地域の展望</p> <p>①地理的な課題と地域調査</p> <p>②現地調査の準備</p> <p>③現地調査の実施</p> <p>④調査の分析と発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本列島は4つのプレートがぶつかり合っていることを理解する。</li> <li>日本に暮らす人々の生活は、気候や局地的な気候、地形などに影響を受けていることを、実体験に基づいて理解する。</li> <li>変動帯で見られる地震や火山の特徴を体系的に学び、その備えについて具体例を通して理解する。</li> <li>防災や減災のために地形図を活用するため、地形図の読図について理解する。</li> <li>降水強度の高い湿潤な日本の気候環境を把握し、地形に応じた防災・減災のあり方について理解を深める。</li> <li>自然災害に備えるためには日常の備えが重要であり、減災に向けた地域防災力の向上が重要であることを理解する。</li> <li>自然災害の多い日本列島で、人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害・地震について、自然現象やこれまで受けてきた災害の歴史を理解するとともに、先人の知恵が詰まった、災害に備え、災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。</li> <li>自然災害に備えるためには、ハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に強い地形や環境について理解し、災害に見舞われた際になるべく被害を減らせる(減災)できるよう、地域防災力を高めるために個人ができることを積極的に話し合う。</li> </ul>	<p>授業態度</p> <p>発問評価</p> <p>提出課題</p> <p>ノート提出</p> <p>定期考査</p>
計64時間(55分授業)			
評価規準と 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力をつけている。</p>	<p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めようとしている。</p>
<p>[評価方法]</p> <p>以上の観点を踏まえ、定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、達成率が80%以上をA、79~50%をB、50%未満をCと評価する。</p>			